

## 平成18年度 施策評価表

所属 02040000  
政策経営部 企画課

施策	0003 ユニバーサルデザイン				
区分					
対象	すべての区民や事業者・開発者				
施策意図	すべての人にとって快適で使いやすいデザイン・しくみが随所に取り入れられている				
現状と課題	今までは、高齢者や身体障害者を対象とし、ハード面(施設整備)でのバリアフリー化に重点が置かれていた。今後は、ハード面にとどまらず、「学校教育」の場での普及・啓発などのソフト事業を含めた施策を展開し、暮らしやすい街づくりを推進していくことが求められている。そのために、職員のユニバーサルデザインに対する意識向上が重要である。				
成果指標	成果指標1：歩道勾配の改善率(改善路線延長÷計画路線延長(20km)) 目標 平成21年度 62.0% 成果指標2：ユニバーサルデザインが普及していると思う区民の割合(マーケティング調査) 目標 平成21年度 14.6%				
目標達成状況		平成17年度	平成18年度		
	成果指標1 [ % ]	予定	36.00	38.00	
		実績	33.00		
	成果指標2 [ % ]	予定	11.60	11.90	
		実績	13.30		
	成果指標3 [ ]	予定			
		実績			
	トータルコスト (千円)	予定		75,280	
		実績	152,661		
	施策の位置付け	区の関与度合	区と住民等との協働。ユニバーサルデザインの考え方を基本とした区の施策を推進し、区民や事業者等の責務を明らかにして、住民と一体となったまちづくりを実現していく。		
区民ニーズへの貢献		ある程度に留まる。現時点では、普及割合は13.3%であるが、今後、区と住民等が協働して、すべての人にとって快適で使いやすいデザイン・しくみを取り入れて行く。			
成果向上の必要性		向上必要。これからは、はじめからあらゆる方法でバリア(障壁)を生み出さないことにより、すべての人にとって暮らしやすい環境をつくっていくことが必要である。			
成果向上の容易性		容易ではない。改善の積み重ねによりデザイン・しくみの完成度が高まり、利用者の利便性が向上する。そのため職員の意識改革を図り時間をかけて取り組んでいく必要がある。			
位置付け総合評価	拡充。これまでは、高齢者や障害者などに対するさまざまなバリア(障壁)を取り除いていこうという、バリアフリーの視点から整備を進めており、すべての人にとって快適で使いやすいデザイン・しくみづくりというユニバーサルデザインの普及はこれからである。				
施策目的達成のための事務事業	事業コード	名称		トータルコスト(千円)	総合評価
	000301	鉄道駅エレベーター等整備費助成		6,554	5
	000303	ハートビル法審査認定事務		920	5
	000304	歩道勾配改善		136,231	5
	000305	交通バリアフリー基本構想策定調査委託(交通バリアフリー事業)		8,013	5
	000302	民間建築物バリアフリー化整備費助成		943	4

【総合評価】6=拡充/5=継続/4=改善/3=再構築/2=縮小/1=廃止・休止/0=今回評価なし

# コスト分析表

年 度 平成18年度

所 属 02040000

施 策 0003

政策経営部 企画課

ユニバーサルデザイン

期 間 平成17年度 ~ 平成18年度

(単位：千円)

		NO	平成17年度	平成18年度			
予 定	財源内訳	国庫支出金	(1)		0		
		都道府県支出金	(2)		15,335		
		地方債	(3)		0		
		その他	(4)		0		
		一般財源	(5)		58,325		
	直接費	事業費	(6)		58,000		
	職員人件費	人件費	(7)		15,660		
		再雇用職員分	(8)		0		
		(職員数：賦課)	(9)		1.80		
		(職員数：配賦)	(10)				
		職員数合計(9)+(10)	(11)		1.80		
	間接費	(12)		0			
	調整額	(加算)減価償却費	(13)		0		
		(加算)金利	(14)		0		
		(加算)退職給与引当	(15)		1,620		
		(控除)コスト対象外	(16)		0		
		(控除)雑収入	(17)		0		
	調整額計 (13)+(14)+(15)-(16)-(17)	(18)		1,620			
	トータルコスト (6)+(7)+(8)+(12)+(18)	(19)		75,280			
実 績	財源内訳	国庫支出金	(20)	1,000			
		都道府県支出金	(21)	41,884			
		地方債	(22)	0			
		その他	(23)	0			
		一般財源	(24)	107,707			
	直接費	事業費	(25)	131,501			
	職員人件費	人件費	(26)	19,090			
		再雇用職員分	(27)	0			
		(職員数：賦課)	(28)	2.30			
		(職員数：配賦)	(29)				
		職員数合計(28)+(29)	(30)	2.30			
	間接費	(31)	0				
	調整額	(加算)減価償却費	(32)	0			
		(加算)金利	(33)	0			
		(加算)退職給与引当	(34)	2,070			
		(控除)コスト対象外	(35)	0			
		(控除)雑収入	(36)	0			
	調整額計 (32)+(33)+(34)-(35)-(36)	(37)	2,070				
	トータルコスト (25)+(26)+(27)+(31)+(37)	(38)	152,661				

施策名	ユニバーサルデザイン
-----	------------

担当課： 企画課

**施策の達成状況**

【達成度評価】  
 歩道勾配の改善率は順調に伸びているが、目標には達しなかった。限られた財源の中で、整備箇所を増やしていくためには、今後とも、補助金を確保しつつ計画的に整備を行っていく必要がある。

**構成事務事業の施策成果貢献度** (事務事業を相対評価し、該当する位置に記載)

<b>事務事業の成果向上の余地</b>	大	・民間建築物バリアフリー化整備費助成		
	中		・歩道勾配改善 ・交通バリアフリー基本構想策定調査委託(交通バリアフリー事業)	
	小	・ハートビル法審査認定事務	・鉄道駅エレベーター等整備費助成	
		小	中	大
<b>施策成果への貢献度</b>				

**構成事務事業の次年度方向性** (事務事業を相対評価し、該当する位置に記載)

<b>事務事業の成果の増減方向</b>	向上	・民間建築物バリアフリー化整備費助成		
	維持	・ハートビル法審査認定事務 ・鉄道駅エレベーター等整備費助成	・歩道勾配改善 ・交通バリアフリー事業	
	減少			
		減少	維持	増加
<b>事務事業のコストの増減</b>				

【次年度方向性の考え方】  
 ユニバーサルデザインの普及においては、構成事務事業を継続して実施していくことが必要である。また、民間建築物バリアフリー化整備費助成については、制度を利用しやすいものに改善するとともに、バリアフリーの意義と助成制度の周知が必要である。  
 今後は、ハード面だけにとどまらず、「学校教育」の場面での普及・啓発などのソフト事業を含めた施策を展開し、全ての人にとって暮らしやすいまちづくりを推進していくことが必要である。17年度交通バリアフリー基本構想策定調査委託が18年度交通バリアフリー事業へ移行